

第 27 回九州・山口地区ハイパーサーミア研究会

平成 26 年 7 月 12 日（土）

原三信病院におけるハイパーサーミア、2 年間の推移と現状

原三信病院放射線科、寺嶋廣美、添田博康、武藤絵美、村上佳菜子、
臨床工学科、元村哲也、吉村 秀、嶽本 洋、真鍋麻実、
看護部、井上文子、斎藤まゆみ

平成 24 年 6 月より原三信病院にて開始したハイパーサーミアは、2 年間を経過した。開始当初から医師、臨床工学技士、看護師の 3 人態勢で臨み、緊急時の対応も適宜になされ事故もなく今日に至っている。主な対象疾患は根治的治療が不可能とされたⅣ期例、転移例または再発例であった。加温回数 5 回以上を有効加温例とし、治療患者総数は 123 例であった。症例で多いものは肺がん 22 例、すい臓がん 19 例、直腸がん 12 例で、ほとんどの症例において同時に化学療法がなされていた。加温部位は胸部、腹部、骨盤部がほとんどで、最多加温回数は腹部加温例の 126 回であった。一人の加温時間は 50 分間とし、加温出力は 1500W を目標にした。123 例の観察期間の中央値は 7 カ月で、MST は 18M. . OS は 1 年 65.2%、2 年 38.5%であった。CR 症例は肺癌Ⅳ期例、乳癌再発例に認められた。腫瘍の縮小と共に、便通と睡眠の好転や食欲の向上、疼痛の軽減など PS の向上も多く認められ、温熱療法が有効であると考えられた。